



大崎地域広域行政事務組合設立
周年
50
SINCE 1971
輝く大地 ひろがる笑顔の大崎広域圏

2021.11.1 特集号

祝 大崎地域広域行政事務組合設立50周年

本組合は、昭和46年8月2日に設立されてから、今年で50年を迎えました。節目の年に当たり、これまでの歩みを振り返り、特集号を発行します。

功労表彰者の紹介

大崎広域圏の振興及び住民の福祉増進に寄与し、その功績が顕著であった方々に対して、表彰を行いました。

地方自治功労

地方自治の振興に貢献

大場 敬嗣 様
鈴木 法日児 様
佐藤病院 院長 佐藤 龍行 様

教育文化功労

教育・文化の振興に貢献

大平 敏雄 様
パレット人形劇フェスティバル実行委員会
おおさき星の会 様

福祉・衛生功労

福祉・衛生の安定と普及向上に貢献

株式会社大崎タイムス社 様
宮城県信用組合協会 様
古川東ロータリークラブ 様
古川古城ライオンズクラブ 様
富樫クリニック 院長 富樫 孝 様
晴山 宗規 様

消防防災功労

消防防災の活動に貢献

宮城県消防協会大崎地区支部 様
一般社団法人 大崎市医師会 様
一般社団法人 加美郡医師会 様
一般社団法人 遠田郡医師会 様

効率的な共同処理事務の推進と 地球温暖化防止に向けた取り組み

少子高齢化による人口減少、都市部への人口流出や核家族化、これらに関係した空き家の増加等が社会問題となり、構成市町では定住自立圏協定や地方創生による「まち・ひと・しごと創生」に関する様々な取組が行われ、今後も地方創生の新展開の時期に入っていきます。さらに、世界農業遺産に認定された大崎圏域は、その保全と活用においても広域連携の必要性が高まっています。

本組合としては、これからの共同処理事務の役割を踏まえながら、構成市町との連携、施設の老朽化の状態や利用状況を踏まえた利活用（統合・廃止や存続）などを図り、10年後も20年後も「持続可能な行政目標」を実現し、子どもや孫の世代、そしてその未来まで希望を抱き豊かな暮らしが送れるよう、効果的で効率的な共同処理事務に努めていきます。

地球温暖化防止に向けた取り組み

「持続可能なエネルギーの地産地消」

令和4年4月の供用開始を目指して建設中の西地区熱回収施設は、既存の中央クリーンセンターの名称を引き継ぐことになりました。

当施設は、ごみを焼却した時に発生する熱エネルギーを回収して、効率的な発電を行い、施設の電力を賄うほか、隣接するリサイクルセンターや桜ノ目衛生センターにも電力を送ることで、二酸化炭素排出量を大幅に削減できます。

さらに、余った電力は売電することで、経済的にも優れた、持続可能なエネルギーの地産地消を実現します。

完成予想図イメージ

～記念誌・記念映像のご紹介～

これまでの50年の歩みを振り返り、一つの区切りとして、記念誌と記念映像を制作しました。それぞれ本組合ホームページとパレット映像館で近日公開を予定しています。ぜひ一度ご覧ください。

◇記念誌(本組合HP) <http://www.osakikoiki.jp/>

◇記念映像(パレット映像館) <http://www.youtube.com/user/paletteoosakitv>

大崎圏域内の小学生・中学生が使える 知ってる?

大崎ゆめっこパスポート

県内の対象社会教育施設で提示すると入館料や利用料が無料(一部割引)で利用できます。詳しくは本組合ホームページまたは大崎ゆめっこパスポートをご覧ください。転入・紛失した方は再発行ができます。

◇本組合HP http://www.osakikoiki.jp/index_jyouthou_info_yumekko.html



管理者 大崎市長 伊藤 康志

大崎地域広域行政事務組合は、設立50周年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆さまをはじめ、国・県、関係市町の皆さまの広域行政に対する深いご理解とご協力の賜物であると衷心より感謝を申し上げます。

本組合は、昭和46年8月2日に設立され、その後、昭和48年の大崎地区消防事務組合、大崎地区伝染病院組合、大崎地区及び遠田地区視聴覚教育協議会の統合、粗大ごみ処理場の操業開始、昭和53年の大崎圏域での障害幼児の療育拠点とする大崎広域ほなみ園の開園、平成10年の視聴覚教材センターを統合した大崎生涯学習センターの開館、そして平成17年の一般廃棄物の処理に関する事務及び斎場の管理運営を共同処理事務とする大崎圏域内3つの一部事務組合の統合など、組合設立以来、半世紀にわたって、その時々々の社会情勢の変化や課題、また、多様化するニーズに対して的確な共同処理事務を担うため、常に組織の強化と充実に努め発展してまいりました。

今日、我が国を取り巻く環境は、想定をはるかに超えるような様々な自然災害が発生し、甚大な被害をもたらしており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の生活様式や社会の在り方が大きく転換する、激しい変革の中にあります。多様で複雑化する課題に直面しながらも圏域住民の皆さまが安全・安心で豊かな生活を送ることのできる持続可能な社会の形成のため、本組合の「輝く大地ひろがる笑顔の大崎広域圏」のキャッチフレーズのもと、構成1市4町の持つ優れた文化や恵まれた自然という地域資源を生かし、一人ひとりの笑顔が結び合えるよう、広域的な連携を通じ、地域活性化、まちづくり、また、地域の防災拠点としての役割を目指し、それぞれの共同処理事務に全力を傾注してまいります。

今後とも本組合に対する皆さま方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この組合設立50周年が契機となり圏域住民の皆さまに大崎地域の広域行政に対する理解をさらに深めていただきますことをご祈念申し上げます。組合設立50周年記念のあいさつとさせていただきます。

～50年のあゆみ～

年月日	できごと
昭和46年8月2日	大崎地域広域行政事務組合設立
昭和47年3月31日	「大崎地域広域市町村圏計画」策定公表 広報紙第1号発行
昭和48年4月1日	大崎地区伝染病院組合を統合
昭和49年3月20日	大崎地区視聴覚教育協議会、遠田地区視聴覚教育協議会を統合し、大崎広域教育委員会を設置、視聴覚教材センター開設
昭和50年3月29日	大崎地区消防事務組合を統合し、消防本部、古川消防署、鳴子消防署、涌谷消防署、新田消防署、色麻派出所、小野田出張所、荒谷派出所を開設
昭和51年2月29日	大崎広域粗大ごみ処理場供用開始
昭和53年4月14日	古川消防署三本木派出所、中新田消防署宮崎派出所開設
昭和54年7月23日	古川消防署松山派出所、涌谷消防署南郷派出所開設
昭和55年3月28日	消防本部特別救助隊発足（隊員7名）
昭和56年6月1日	大崎広域ほなみ園開園
昭和57年5月30日	宮城県沖地震（マグニチュード7.4）
昭和58年7月17日	大崎地域広域行政事務組合消防庁舎開設
昭和59年7月20日	消防本部・古川消防署を消防庁舎へ移転
昭和60年7月23日	消防本部消防音楽隊発足（隊員27名）
昭和61年9月6日	事務局を合同庁舎から消防庁舎へ移転
昭和62年9月6日	国土省から大崎・栗原地方モデル定住圏の圏域に選定される
昭和63年3月28日	視聴覚教材センターを古川市中央公民館から大崎地域広域消防庁舎へ移転
昭和64年6月1日	消防119番集中管理運用開始
昭和65年8月5日	台風第10号被害（鹿島台町）
昭和66年7月1日	自治省からふるさと市町村圏に選定される
昭和67年3月10日	鳴子消防署庁舎開設
昭和68年12月16日	イメージキャラクター「大崎夢っ子」誕生
昭和69年8月1日	大崎広域リサイクルセンター供用開始
昭和70年11月22日	大崎で初めて救急救命士を常置（古川消防署）
昭和71年9月13日	宮城県知事から大崎地方拠点都市地域に指定される
昭和72年1月17日	阪神淡路大震災（マグニチュード7.3）
昭和73年9月5日	緊急消防援助隊編成に救助隊1隊、消防部隊2隊を登録
昭和74年8月10日	大崎ふるさと市町村圏計画を推進のため「大崎まちづくり協議会」発足
昭和75年4月1日	大崎広域一般廃棄物最終処分場供用開始
昭和76年4月20日	きのこ工場工事現場火災（古川市上中目）
昭和77年8月8日	視聴覚教材センターを統合し、大崎生涯学習センター（パレットおおさき）開館
昭和78年3月5日	国立鳴子病院火災（鳴子町）
昭和79年3月5日	ソニー（㈱中新田工場火災（中新田町）
昭和80年4月1日	消防救急通信指令システム運用開始
昭和81年11月12日	三本木防災センターに併設した三本木出張所開設
昭和82年4月1日	加美町誕生（中新田町、小野田町、宮崎町の3町が合併）
昭和83年7月26日	構成市町は1市4町となる
昭和84年4月1日	宮城北部連続地震（マグニチュード5.6、マグニチュード6.4、マグニチュード5.5）
昭和85年5月31日	宮城東部汚泥再生処理センター供用開始
昭和86年3月31日	福祉型児童発達支援センター大崎広域ほなみ園へ移行
昭和87年4月1日	鹿島台分署、松山派出所を統合し、古川消防署志田分署開設
昭和88年4月1日	鳴子消防署岩出山分署開設
昭和89年4月1日	消防救急デジタル無線システム及び高機能消防指令システム運用開始
昭和90年2月21日	小野田出張所、宮崎派出所を統合し、加美消防署西部分署開設
昭和91年4月1日	大崎広域大日向クリーンパーク供用開始
昭和92年10月1日	衛生部局3事業所（西部・中央・東部）を統合
昭和93年2月17日	田尻出張所を古川消防署田尻分署に格上げし開設
昭和94年9月11日	関東・東北豪雨被害（大崎市古川地域西荒井）
昭和95年12月28日	大崎地域広域行政事務組合の組合章及び組合旗制定
昭和96年8月31日	台風第10号被害（岩手県下閉伊郡岩泉町）
昭和97年4月29日	初めて緊急消防援助隊として出動
昭和98年8月18日	大崎生涯学習センタープラネタリウムリニューアル
昭和99年4月1日	イメージキャラクター「らいすくん」誕生
昭和00年4月1日	大崎広域ほなみ園医療的ケア児受け入れ開始
昭和01年9月6日	北海道胆振東部地震（北海道勇払郡厚真町）
昭和02年3月19日	緊急消防援助隊出動
昭和03年4月1日	拠点機能形成車を古川消防署へ配備（総務省無償貸与）
昭和04年3月19日	大崎地域広域行政事務組合本庁舎開設
昭和05年7月1日	大崎広域リサイクルセンター（屋内型）供用開始
昭和06年10月12日	東日本台風（台風第19号）被害（大崎市鹿島台地域）
昭和07年4月1日	宮城県広域消防相互応援出動（丸森町）
昭和08年10月3日	中型水陸両用車（カムロアークス）を鳴子消防署に配備（総務省無償貸与）
昭和09年1月19日	緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練開催（大崎市鳴子温泉地域鬼首地内、荒雄湖畔公園ほか）
昭和10年7月23日	東北自動車道多摩重衝突事故（大崎市古川地域141台）
昭和11年1月23日	東京2020オリンピック競技大会開幕
昭和12年8月2日	宮城県広域消防相互応援消防特別警戒（サッカー競技・利府町宮城スタジアム）
昭和13年8月2日	大崎地域広域行政事務組合設立50周年

消防



平成28年8月31日
台風第10号被害に伴い、緊急消防援助隊宮城県大隊として、当消防本部から初めての出動



令和2年4月1日
中型水陸両用車（カムロアークス）を鳴子消防署へ配備（総務省消防庁から無償貸与）

平成31年3月19日
拠点機能形成車を古川消防署へ配備（総務省消防庁から無償貸与）

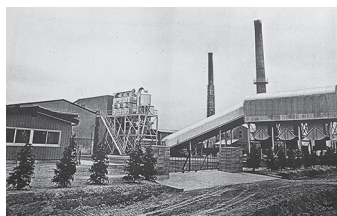


令和2年10月3日
令和2年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練が大崎市を会場に開催



環境衛生

昭和48年7月1日
粗大ごみ処理場供用開始



平成5年8月1日
従来の粗大ごみ処理場を、大崎広域リサイクルセンターとして供用開始

昭和55年3月28日
視聴覚教材センターを古川市中央公民館から大崎地域広域消防庁舎へ移転

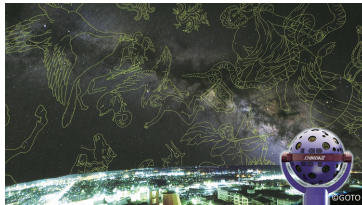


生涯学習

令和元年7月1日
大崎広域リサイクルセンター（屋内型）供用開始



平成29年4月29日
大崎生涯学習センタープラネタリウムリニューアル



児童発達支援



昭和53年4月14日
大崎広域ほなみ園を旧古川市志田地区に設立



平成22年4月1日
園舎を大崎市古川志田地区から大崎市三本木南谷地地区へ移転